

石川正七編輯

繪入 弘法大師四國大迹山開

あうりやうだいししこくはちぢうはつうままひらき

光明真言訓讀附

明治十七年
七月五日出版

江藤氏藏版

特36
968



山開キ

勿幹無も。讚州たよの郡。去
らかびよりふか。浦ふ。御父
佐伯善道様。御むつはらう。
御くらり。其時のまや御前
の御腹をかり。十三月の間御

石川正七編輯

繪入 弘法大師四國八ヶ所開

あうりやうだいししこくはちがうけうしやまひん

光明真言訓讀附

明治十七年
十一月五日出版

江藤氏藏版

特56
968



山開キ

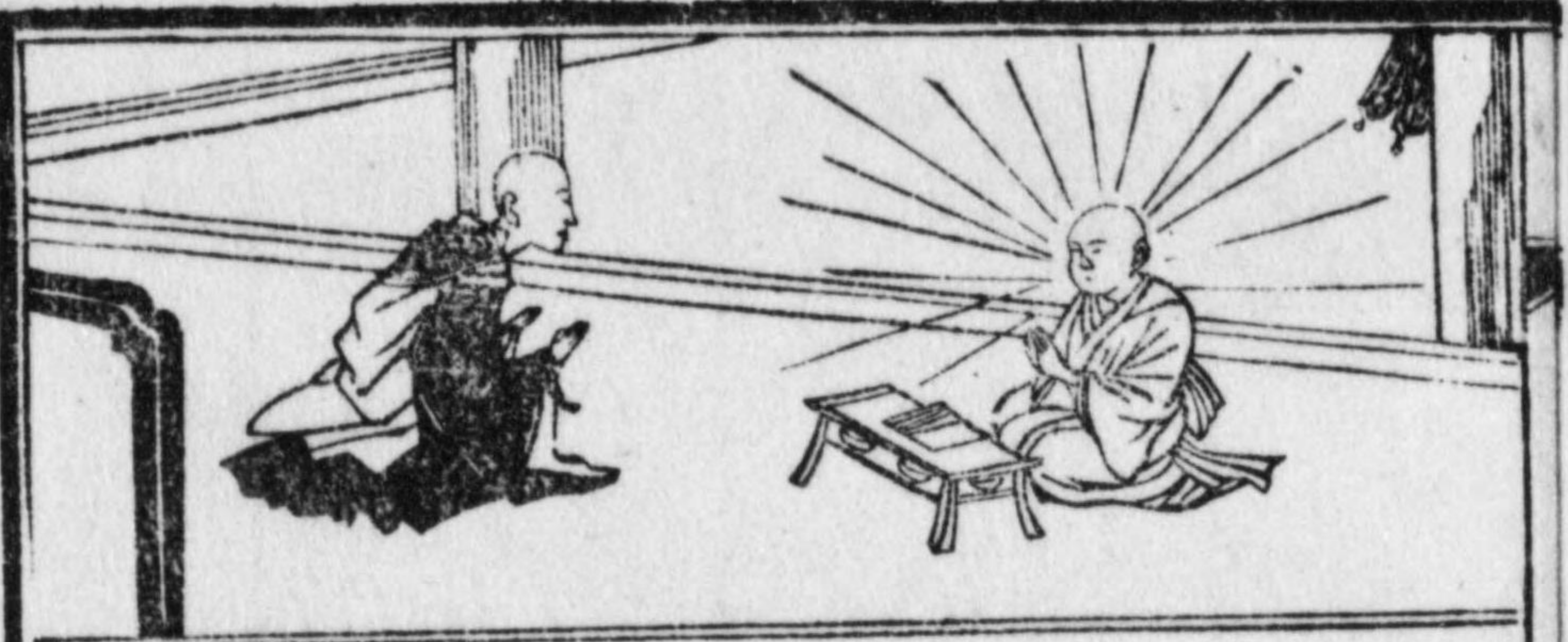
勿幹無も。讚州たよの郡。去
らかびよりふか。浦ふ。御父
佐伯善道様。御むつはちう。
御くら。其時つよや御前
の御腹をかり。十三月の間御



のちあされ。寶龜五年。六月
 十五日。寅年寅の月寅の刻。不
 御たんまきうきされ。あまや
 御前ごぜんのまかとなき。せんん山
 すと子なまされ。其時せん
 だん山かみやまの師生しやうしやう通りかりされ



やいだま。御山みやまにあか子こはる
 へとありと法華經ほふけよむよ
 うにまことあ。御みととふまより。
 かんまよ。まへ奉たてまつれ。日月ひかりげつの
 如ごと。御身みみの佛ぶつの如ごとく。相見あひみえ
 これたごあらんと。衣そでの袖そでおはく



はまて我家へつれかたう。そご
 てゆげれ。一歳の御歳去んぬ
 經よみ開き。二歳の御と
 一ぶん經よみ開き。三歳の御
 と一三部經よみ開き。五歳の
 御年諸經よみ開き。七文の御



年世上の者をたすけんがため
 我身をすてて讀み。や谷山
 あり。學文をされ。一度四國を
 むろめ分たれ。七歳の御年ふ。
 春ハ三月。四國をめぐられたり。
 其時あさの衣ふたじろかぎ。



せふにその儀。さんやをくひま
 かけたる札をさみ丈は六寸。
 横巾二寸。表の印は奉納四國
 八十八ヶ所とある。同行入
 裏に三界万灵と書ある。
 御手に手どしの尻附。足に脚伴



甲掛。あゝあかどろろ。毛の御まに
 百八ぼんのりの珠数をりち。右の御
 手に金剛杖をつたがされ。山々谷々
 島々上下所々。南無大師遍照
 金剛へ御まわり。をされ道へごら
 四百八十八里のちんをじ。川の数が四



百と八十あんに。阪難をあらうり四百
 と八十あんに。今あを世よの
 物を救うんがためになんちうの
 ともから。なん病何程あう病を
 も。茶師如來のくすり。はていざうん
 車どのり納め。おん高々念佛をみ



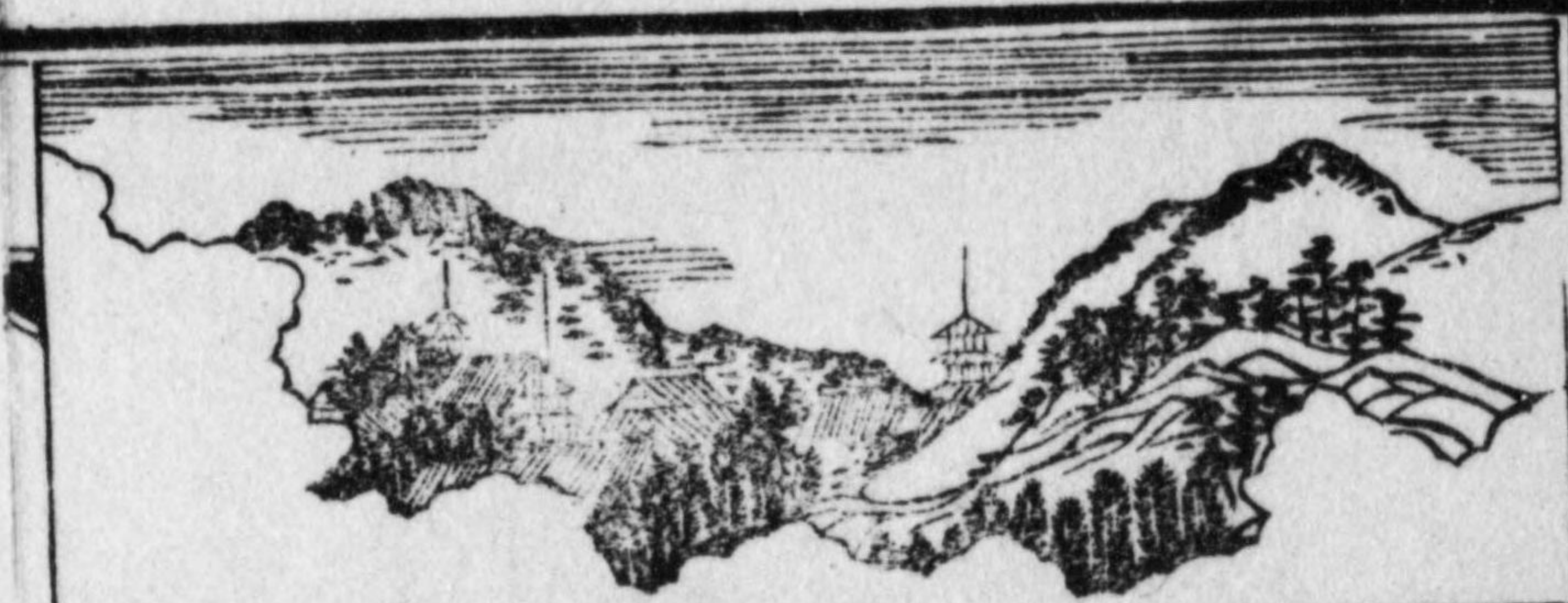
ようにさうさるんぼむ海のく
 りのもはれておく。たどくひんく
 いらすとも。毘沙門天の宝はて
 金銀賤宝さのかり。二に札所
 札所手づから納置き。二重は
 さのや。穴堀のげ。朝日龍にぶ



らい。あうの水しづ一本いつぽん杖つゑでひるぬ
 くと十夜じゅうやが橋はしのぐくくなされ。
 鯨くじらの町まち江えとすかかさんさん百丁ひゃくてい
 登のぼれのぼ岩いわ間山まやま。あれも岩いわやめ
 らたある。けんけんあんあんよよけけの守まもを
 らけ。おおわわけけせんせん兵へいののほり



金かねののささららををののほり。二千にせん号ごう
 ののててととをを登のぼりのぼ岩いわややああががも
 弥陀みだ如にょ來らい。ああままぎぎのの中なかももよよほ
 ささままりり。いいつつややさんさん百ひゃく丁ていととななれ
 ままががわわををんんくくぶぶののかかいいににをを
 づづののいいもも年としにに三さん度どのの粟あわももああるる。



いのつは子でも。すてゝ老の
 どのたひなちも。つをちか
 らにまで。の山やま三づの川がはを渡わたる
 たら。ぼぐゝの為ためとをのひ
 おぢすすき。たぐ一まんに
 南無大師遍照金剛なんぶだいしへんしょうこんごう



人の心もかぐみ岩いわゆるぎの石いし
 も亀かめもうく。石鳥居いしのとりゐも半はん
 出来。大の石おほいし。あはのまこと。あは
 のみちひにてんとの松龍宮まつりゅうぐうの
 まつ所ところ々にやうがや。今日けふの
 人の野邊ののべすがた。いとうかあ

とちろゑこ抄すき。
南無大師遍照金剛



光明真言訓讀

皈命頂禮御ぼらうけん此々をく

こくてとのふれへ清淨けんあめ地々

なりて佛もよろうがうはらひませそ

則淨土なり

唵阿謨伽とよのうらる其人へ諸佛

ほやうも天々ざうり。衆生をすす
たのうちあり

毘盧遮那と。そのうれハ大日如來の
御身にて。説法またまふすがさあり
摩訶母捺羅と。そのうれハ。福壽も
此垂よまかざうり。二垂安楽の身と成

摩拏鉢鉢納摩と。そのうれづつこある
女人もたてをくむねの蓮華も開く也
入嚩囉と。そのうれハ其入此光明に
てらぎれて。ぐちめあんの蔡までも
佛のすがたにありにあり
嚩囉鞞哩多耶と。そのうれハ萬の

願ねがひも志こころよぶもす。佛ぶつも衆しゆんもへんごをぞ
 叫うん。とこのふる其時そのときへ。此真言このしんごんの
 功こう力りきによりて。いかにある地ちもくももうち
 やぶり。たぢはち淨土じやうどよありにけり
 一度ひとたび此句このくを唱となふれば。極重ごくじゆう惡あくの輩はいも
 三足さんそく無妙むめうのつみまきて。則すなはち淨土じやうどに至いたる也なり

此句このくを唱となふる其人そのひとへあたる風ふうもふる
 雨あめもやまらう。ひどやうものころみく
 佛化ぶつけの志こころんに至いたるなり。是これ皆みな佛ぶつの
 せつたれば。うたがう者ものへ迷まよひたり
 佛ぶつにあやほりまゝはさす。つわり
 あければ。佛ぶつあり

南無大師遍照金剛

大師 ▲さんけい日

● 西条とら日

▲	正月五日	十日又向	●	二月七日	五千日又向
▲	同 十六日	六千日又向	●	同 八日	八千日又向
▲	三月四日	二千日又向	●	同 十五日	五千日又向
▲	同 十五日	五万日又向	●	同 廿五日	五千日又向
▲	五月十一日	七千日又向	●	同 六月十一日	三千日又向
▲	同 十五日	五千日又向	●	同 廿二日	三万日又向
▲	七月廿四日	五千日又向	●	同 八月十日	五千日又向
▲	同 十五日	五万日又向	●	同 十八日	三万日又向
▲	九月八日	一万日又向	●	同 十月十五日	八万三千日
▲	同 十一日	五万日又向	●	同 十九日	三万日又向
▲	十一月六日	四万三千日又向	●	同 十二月十三日	五千日又向
▲	同 九日	八万三千日又向	●	同 二十四日	三万六千日

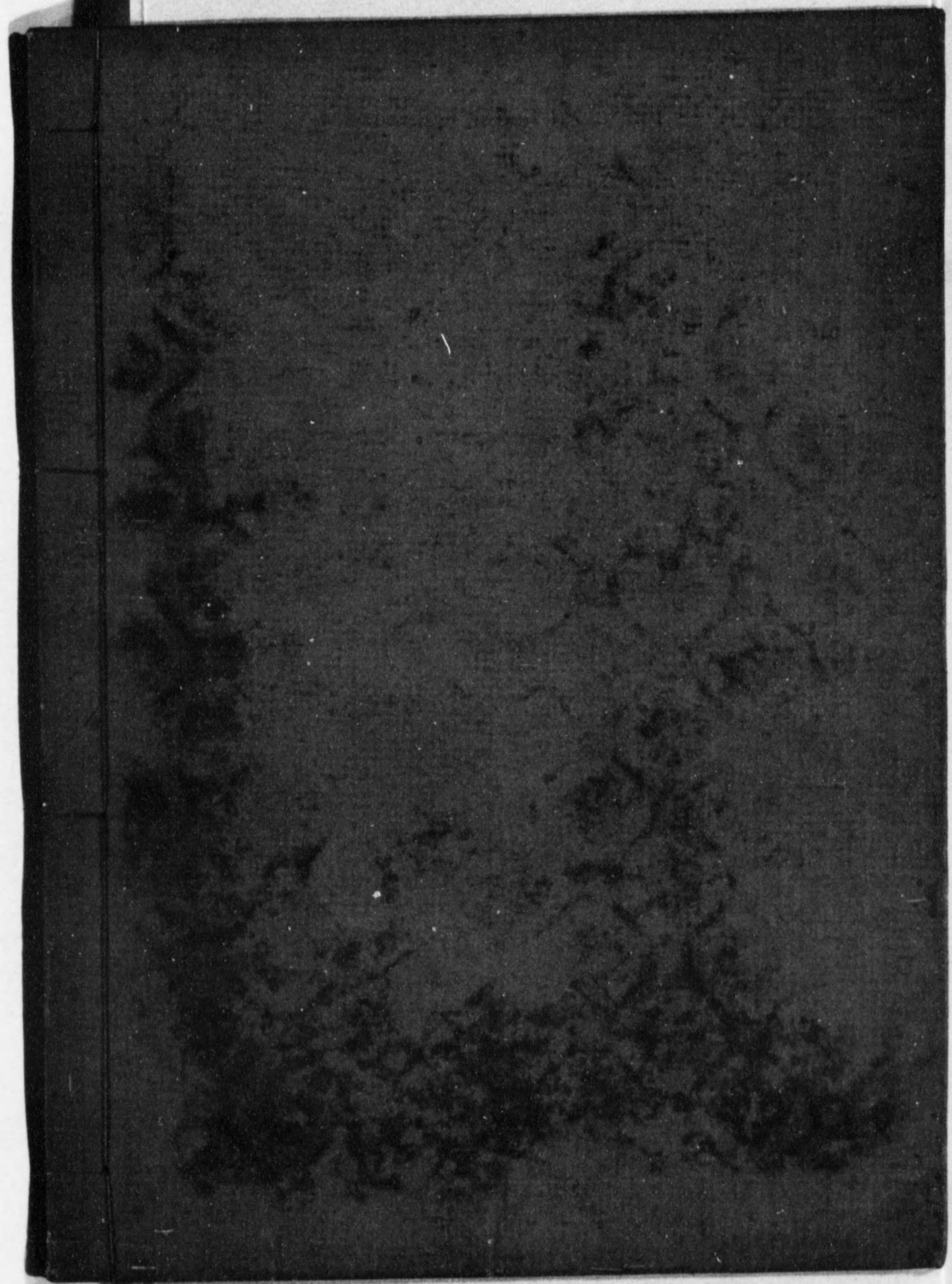
右のごとく三年三月の万さんけい日又ハ西条とら日又ハつとむる人ハいふ
ある所でも感持するものなりと云ふ所ハ一ツか傍心よほめくりてなり

明治十七年十月七日出版御届
明治十七年十一月十五日出版發兌



出版人

福岡縣士族 江藤正澄
福岡箕子町三十七番地



繪入
弘法大師四国八十八ヶ所山開
140
3
完

特36

968

016905-000-2

特36-968

弘法大師四国八十八ヶ所山開(繪入)

石川 正七/編

M17. 11

ABE-0123

